

綾町 × 宮崎大学

綾町は昨年9月、宮崎大学と包括的連携に関する協定を結びました。この協定を受け、今年度から「綾生物圏保存地域（ユネスコ エコパーク）の生態系の保全と持続可能な利活用の調和に関する研究」という題目で、宮崎大学の研究を支援することになりました。

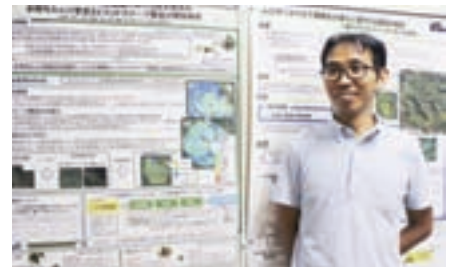
綾町の生物多様性の保全を図り、豊かな地域資源を有効活用して、持続可能な地域づくりに関する研究に取り組んでもらい、その成果を綾町のまちづくりに役立てることを目指します。

動き始めた4つの研究を紹介します。



01) 研究テーマ

綾ユネスコ エコパークの 農産物ブランド化に向けた生態学的研究 ～日向夏とハチミツを対象として～



農学部 森林緑地環境科学科
教授 光田 靖さん

ミツバチの訪花数を調査

平成 26 年から、綾町の 16 件の日向夏生産者の協力を得て、日向夏の花を訪れるニホンミツバチの数を調査しています。現在、農家は受粉を手作業で行っている状況ですが、ミツバチによる受粉が多ければ、作業を効率化できる可能性があります。そこで、どんな農園にミツバチが多くやってくるかを、大学院生の湯村昂広くんを中心とした研究室のチームで調べています。

自然と共生の取り組みが調査結果に

調査では、綾町の環境保全と自然生態系農業の取り組みが評価される結果が現れました。果樹園の周辺に天然林が多い場合、そして農地が多い場合にミツバチの訪花数が多いことが分かったのです。これまでの研究では、農地には農薬が使われていることからミツバチの訪問数が少なくなるという結果でしたが、自然生態系農業に長年取り組んでいる綾町では、農地がミツバチのえさ場になっていると言えるでしょう。

このミツバチの訪花数については、気候などさまざまな要因で年によって変化するため、あと2～3年は検証のための調査をしたいと考えています。また今後は、ミツバチの訪花数が日向夏の収穫量にどんな影響を与えているのかを調べていきます。



農産物のブランド化を後押し

保全生態学と産業・経済活動が結びついた研究は世界的に見ても珍しいものですが、ユネスコ エコパークに登録されているドイツのレーン地方は、伝統的な農法について科学的証明による高い付加価値を付けることで、農産物のブランド化に成功しています。

国内でそのような事例はまだありませんが、日向夏と、日向夏の果樹園で養蜂されるニホンミツバチのハチミツが、綾ユネスコ エコパークにおける自然の恵みを象徴する農産物＝エコプロダクツとして、研究成果を裏付けにブランド化されることを目標に、さらなる調査を続けていきます。

地域の研究始まる!



地域資源創成学部
准教授 根岸 裕孝さん

03) 研究テーマ

綾町の持続可能な地域づくりに関する研究

経済構造の比較分析から 地域ビジネスの創出へ

国を挙げて地方創生が叫ばれる中、地方への移住定住が推進されています。そのためには雇用が不可欠で、経済力向上なしに地域活性化は語れません。私の研究では、まず、綾町・国富町・宮崎市の経済構造の比較分析を行い、それを基に、雇用創出や商品開発など「地域でかせぐ」方策について研究していきたいと考えています。

地域経済の活性化には、若い人たちが新しいことに挑戦する風土が必要です。綾町の豊富な地域資源を磨き、発信するための外部人材の活用や地域のリーダー育成など、まちの持続可能性には「人」が重要なポイントとなります。この研究をさらに進め、綾町におけるコミュニティビジネスの可能性についても探っていく計画です。

02) 研究テーマ

ユネスコ エコパーク 移行地域における 生産活動の持続可能な 発展に関する研究



産学・地域連携センター
講師 大元 鈴子さん

地域資源を掘り起こし 多様な農業の可能性を探る

以前所属していた研究機関で、平成 24 年のユネスコ エコパーク登録以来、綾町の農業分野の調査をしてきました。この 7 月からは、宮崎大学で地域連携に関する研究を始めています。

本テーマの調査は 10 月から行う予定です。新規就農者をはじめとする綾町に I ターン・U ターンで住んでいる皆さんの属性などを聞き取り調査し、データ化することを考えています。これにより、綾町の魅力や地域資源の再発見、移住施策の充実に活用できると考えます。

また、全国的に「オーガニック」がブームになっていますが、それだけではない多様な綾町の農業の姿や、6 次産業化など農業の産業への広がりについても調査していきたいと思っています。



地域資源創成学部
講師 福島 三穂子さん・准教授 金岡 保之さん

04) 研究テーマ

綾町の魅力を海外観光客にアピール 地域と連携した実践的英語教育

綾の魅力をインターネットで世界に発信

地域資源創成学部の特色のひとつは「実践教育」です。地域に出て、課題や解決策を見つけていくことが大切になります。本県は外国人観光客に対する情報が少ない現状にあります。そこで、私たちの研究では、食や民話など綾町が持つ地域資源の魅力を学生とともに調査し、世界に向けて情報発信する計画です。

今年度は、宿泊調査で地域資源の「物語」を収集し、動画やウェブの制作、インターネットによる情報発信を進めたいと考えています。また、情報発信の方策も町民の皆さんと一緒に学んでいけたらと思います。「国際化」「情報通信技術」「文化」「人材育成」といった多岐にわたる要素を含む幅広い学びができるよう、力を注いでいきます。



ユネスコエコパーク通信

南九州大学との 包括的連携スタート！

綾町と南九州大学が包括的連携に関する協定を結び、その調印式を8月16日に行いました。

「包括的連携に関する協定」とは、教育・産業・福祉などさまざまな分野でお互いに協力し、地域の発展に寄与することを目的に結ばれるもので、綾町と学術機関との包括的連携協定は、昨年9月に結んだ宮崎大学に続いて2件目となります。

南九州大学とは、これまでも環境教育や食品開発などの分野で連携をしてきましたが、この協定により、その取り組みがさらに強化されます。特に、ユネスコスクールに認定されている綾小学校・綾中学校でのESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みや町内産ブドウを用いたワイン造りなどが推進される予定です。また、健康や福祉に関する分野、人材育成などについても幅広く取り組みが行われることが期待されます。



寺原学長は「地域と連携して綾の課題を解決したい」と述べられました。綾町全体をキャンパスに見立て、あらゆる資源を活用しながら、同大学と綾町の発展につなげていきたいと考えています。

猟師と行く 川中ツアー



山の日の制定と、ユネスコエコパークの登録4周年を記念して、8月11日に「猟師と行く川中ツアー」が行われました。

町内外から23人が参加し、綾町猟友会会長の小西俊一さん（上畑地区）のガイドで、川中自然公園周辺の約2.5kmを散策。一本杉の大きさに感動したり、スタッフ手作りの冷や汁などに舌鼓を打ったりし、森での1日を満喫しました。

また、山ヒルに血を吸われた3人には、献血証明書が発行され、笑いを誘っていました。

コラム

マシジミ

前回のコラムの写真にも登場していた、地味なマシジミを紹介します。みそ汁の具として食されるヤマトシジミが淡水と海水の混じる汽水域に住むのに対して、マシジミは完全な淡水にいるシジミです。地域によっては古くから食用としても利用されていたと言われています。

山里などの水路で底に砂がたまっているような昔ながらの環境を維持することができず、河川改修や水質悪化などの影響で全国的には減少し、絶滅が危ぶまれています。

